

IV. まとめ

本研究では、退院後調査と入院中調査を実施した。

退院後調査において 18 病院 4,389 件のデータを集計したところ、入院中の有害事象の発生頻度は 6.0%、そのうち予防可能性が高い（50%以上）と判定された事象は、18 病院全体で 23.2%であった。

また、入院中調査と退院後調査を実施し、その結果を比較したところ、退院後調査の方が有用であり、インシデントレポートと組み合わせて調査することでより多くのインシデントの把握が可能となると考えられた。ただし、入院中調査にも、医療従事者への事故防止意識の啓発等の効果もあると考えられる。

なお退院後調査の有用性は、個々の病院の診療記録記載の精度が高いことと、調査員の習熟度の違いとに依存するところから、今後わが国における有害事象発生頻度を継続的にモニターする場合には、診療記録記載の精度と調査員の習熟度を維持向上させる仕組みが必要と考えられた。

参考資料 有害事象一覧

調査対象入院の前に生じた有害事象 (調査対象入院の前に生じた事象により、新たな入院が必要となったり、入院が延長したり、障害が残ったり、死亡が早まった事例)	医療との 因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=實際上困難
1.診断に関連した有害事象		
前医で乳癌を見落としのため、症状が進行し、死亡が早まった	2	1
前医で虫垂炎の診断がつかず、腹膜炎を発症し、入院期間が延長した	2	1
前医にてMRIで腰部硬膜外膿瘍の診断がつかず、治療が遅れ症状が悪化し、新たな入院を要した	2	1
前医入院中に肺炎の診断・治療が遅れ、ショック状態になり、入院期間が延長した	2	1
外来で肺結核を見落としのまま手術のため入院となり、入院期間が延長した	2	1
胸部症状に対する精査がなされず、心筋梗塞を発症し、入院期間が延長した	3	1
心不全の診断・治療の遅れにより症状が増悪し、新たな入院を要した	3	1
前立腺癌の診断の遅れにより死亡が早まった	3	2
2.検査に関連した有害事象		
糖尿病患者が、検診時に血糖測定されず、帰宅途中で低血糖となり、新たな入院を要した	2	1
前立腺生検後の急性前立腺炎により、新たな入院を要した	2	2
前立腺生検後の急性前立腺炎により、新たな入院を要した	2	2
胃内視鏡中に潰瘍が穿孔し、心停止となり、新たな入院を要し、死亡が早まった	2	2
大腸内視鏡検査時に大腸に裂創を生じ、新たな入院を要した	2	2
前立腺生検後の血尿により、新たな入院を要した	2	3
胃生検後の出血のため、新たな入院を要した	2	3
大腸内視鏡検査後の限局性腹膜炎により、新たな入院を要した	3	3
3.治療に関連した有害事象		
前医で胃癌の治療が不適切であったため、半年後に再発し、新たな入院を要した	2	1
前医外来で心不全患者に不適切な輸液が行われ、心不全悪化で新たな入院を要した	2	1
腰痛に対し、指圧師が指圧を施したところ、血腫を形成し、新たな入院を要した	2	1
腹膜透析の既往がある患者のイレウス再発により、新たな入院を要した	2	3
胸腔ドレーン挿入部に肉芽を形成し、切除のため、新たな入院を要した	2	3
前医外来での不十分な喘息治療により、新たな入院を要した	3	1
心不全、肺炎に対する不適切な外来治療により急性腎不全を発症し、新たな入院を要し、死亡が早まった	3	1
びまん性汎細気管支炎に対する不適切な治療により、新たな入院を要した	3	1
発熱で近医受診したが、肺炎となり、新たな入院を要した	3	2
前回、心不全の治療が不十分な状態で退院し、症状悪化により、新たな入院を要した	3	2
子宮癌に対する手術と放射線治療後、感染性リンパ管炎により、新たな入院を要した	3	3
腰痛に対して整体治療を受けていたが、症状が悪化し、新たな入院を要した	4	2
不適切な治療による結節性紅斑の増悪により、新たな入院を要した	4	2
透析管理不全にて肺水腫となり、新たな入院を要した	4	2
突発性難聴の治療の遅れにより、退院後も高音域聴力障害が残った	4	2
4.処置に関連した有害事象		
前医での膀胱カテーテル挿入時の尿道損傷により、新たな入院を要した	1	1
施設での膀胱カテーテル交換時の尿道損傷により、新たな入院を要した	1	1
往診時に栄養チューブを交換した後、誤嚥性肺炎を発症し、新たな入院を要した	1	1

調査対象入院の前に生じた有害事象 (調査対象入院の前に生じた事象により、新たな入院が必要となったり、入院が延長したり、障害が残ったり、死亡が早まった事例)	医療との 因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=實際上困難
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、近医で褥創を掻爬して出血性ショックとなり、新たな入院を要した	2	1
前医での抜歯が不十分であったため、新たな入院を要した	2	1
膝関節注射後に化膿性関節炎を生じ、新たな入院を要した	2	1
気管挿管後の声帯肉芽腫形成により、新たな入院を要した	2	2
内視鏡的大腸ポリープ切除術後の出血のため、新たな入院を要した	2	2
内視鏡的大腸ポリープ切除術後の出血のため、新たな入院を要した	2	3
直腸癌の内視鏡的切除後に、潰瘍形成により下血を生じ、新たな入院を要した	2	3
在宅患者の尿閉に対し訪問看護師が導尿を行ったが、症状が改善せず水腎症・腎不全となり、新たな入院を要した	3	2
腰椎椎間板ヘルニアに対する硬膜外ブロック時に硬膜誤穿刺となり、新たな入院を要した	3	2
訪問看護師と家族が褥創の処置をしていたが、感染を起こして、新たな入院を要した	4	2
分娩時の傷害による頸椎障害により、新たな入院を要した	4	3
5.薬剤に関連した有害事象		
ジギタリス中毒による徐脈、心不全により、新たな入院を要した	1	1
紹介状記載ミスにより、他院でジギタリスを過量投与され、新たな入院を要した	1	1
抗血栓剤内服中、大腸憩室から下血し、新たな入院を要した	2	1
薬剤誘発性喘息の既往を確かめずに非ステロイド性抗炎症薬を投与し、新たな入院を要した	2	1
βブロッカーによる不整脈により、新たな入院を要した	2	1
喘息患者が消炎鎮痛剤座薬使用後、呼吸困難となり、新たな入院を要した	2	1
心臓手術後、抗生物質の副作用が出現し、新たな入院を要した	2	1
抗リウマチ薬による汎血球減少により、新たな入院を要した	2	1
造影剤アレルギーにより、新たな入院を要した	2	3
造影剤により腎不全を来し、新たな入院を要した	2	3
造影剤アレルギーにより、新たな入院を要した	2	3
抗不安薬を内服中、肝機能障害を来し、新たな入院を要した	2	3
抗リウマチ薬による間質性肺炎により、新たな入院を要した	2	3
胃切除術後、内服薬によるふらつきが出現し、新たな入院を要した	2	3
結核治療中の肝機能障害により、新たな入院を要した	2	3
外来で脳腫瘍に対する化学療法中、めまいのため、新たな入院を要した	2	3
抗甲状腺薬を内服中、好中球減少と発熱により、新たな入院を要した	2	3
骨髄疾患治療薬内服中、イレウスにより、新たな入院を要した	2	3
抗癌剤投与中の腸炎、下痢により、新たな入院を要した	2	3
抗癌薬投与中の発熱とリンパ節腫脹により、新たな入院を要した	2	3
抗生物質投与後の溶血、血小板減少により、新たな入院を要した	2	3
マルトース加乳酸リンゲル液を点滴後にアナフィラキシーショックを生じ、新たな入院を要した	2	3
乳癌の化学療法後に好中球減少を来し、新たな入院を要した	2	3
前回入院時に、気管支拡張剤の血中濃度を測定せず、喘息により、新たな入院を要した	3	1
ステロイド薬と非ステロイド性抗炎症薬を内服中、出血性十二指腸潰瘍を生じ、新たな入院を要した	3	1
ジギタリス中毒による食欲不振、嘔気により、新たな入院を要した	3	2
向精神薬による薬剤性パーキンソニズムが疑われ、新たな入院を要した	3	2

<p style="text-align: center;">調査対象入院の前に生じた有害事象</p> <p style="text-align: center;">(調査対象入院の前に生じた事象により、新たな入院が必要となったり、入院が延長したり、障害が残ったり、死亡が早まった事例)</p>	<p style="text-align: center;">医療との 因果関係</p> <p>1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い</p>	<p style="text-align: center;">予防可能性</p> <p>1=高い 2=低い 3=實際上困難</p>
非ステロイド性抗炎症薬と抗凝固薬などを内服中、出血性胃潰瘍により、新たな入院を要した	3	2
脱水に伴うジギタリス中毒により、新たな入院を要した	3	2
カルバマゼピン内服中に血栓による下肢動脈の急性閉塞を生じ、新たな入院を要し、退院後も下肢の障害が残った	3	2
非ステロイド性抗炎症薬(プロドラッグ)を内服中、十二指腸潰瘍を発症し、新たな入院を要した	3	2
心房細動に対し抗不整脈を変更後、心房粗動になり、新たな入院を要した	3	3
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、出血性胃潰瘍により、新たな入院を要した	3	3
30年以上前に輸血歴あり、肝生検のために新たな入院を要した	3	3
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、抗潰瘍薬も処方されていたが、胃潰瘍を生じ、新たな入院を要した	3	3
抗生物質を内服中、肝機能障害を来し、新たな入院を要した	3	3
母体に投与された薬剤による新生児の薬疹が疑われ、新たな入院を要した	3	3
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、胃粘膜保護剤も処方されていたが、出血性胃潰瘍のため、新たな入院を要した	3	3
向精神薬内服中の麻痺性イレウスにより、新たな入院を要した	3	3
気管支拡張薬内服中、動悸のため、新たな入院を要した	3	3
非ステロイド性抗炎症薬(プロドラッグ)内服中の出血性胃潰瘍により、新たな入院を要した	3	3
不妊治療後、卵巣過剰症候群を発症し、新たな入院を要した	3	3
30年以上前に輸血歴あり、C型肝炎から肝硬変を生じ、新たな入院を要した	3	3
40年以上前に輸血歴あり、C型肝炎の治療のために新たな入院を要した	3	3
感冒にて服用していた薬剤により皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群) を生じ、新たな入院を要した。	3	3
抗リウマチ剤を服用中に蛋白尿が悪化し、新たな入院を要した	3	3
軟膏使用後の皮膚炎により、新たな入院を要した	3	3
40年以上前に輸血歴あり、C型肝炎の治療のため新たな入院を要した	3	3
40年以上前に輸血歴あり、C型肝炎の治療のため新たな入院を要した	3	3
前医で症候性てんかんの患者に痙攣を誘発する可能性のある抗生物質が投与され、てんかんを発症し、新たな入院を要した	4	2
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、脳内出血を発症し、新たな入院を要した	4	2
糖尿病治療薬内服中に心不全が悪化し、新たな入院を要した	4	2
抗凝固薬内服中に、胃潰瘍の再発による下血のため、新たな入院を要した	4	2
抗血栓剤内服中に出血性胃潰瘍を発症し、新たな入院を要した	4	3
鎮痛薬(アセトアミノフェン)内服後に呼吸困難となり、新たな入院を要した	4	3
7.手術後に発生した有害事象		
膝の手術後の化膿性関節炎により、新たな入院を要した	2	1
そけいヘルニア根治術後の再発により、新たな入院を要した	2	1
膝の手術後に、化膿性関節炎となり、新たな入院を要した	2	1
人工肛門周囲に糸が残っていて皮下膿瘍を形成したため、新たな入院を要した	2	1
脳外科手術後、創部感染、硬膜下膿瘍を発症し、新たな入院を要した	2	1
そけいヘルニア根治術後の再発により、新たな入院を要した	2	1
そけいヘルニア根治術後に再発を繰り返し、再々手術のため新たな入院を要した	2	1
大腿骨骨折手術後に骨髄炎を発症し、新たな入院を要し、退院後も歩行障害が残った	2	1

調査対象入院の前に生じた有害事象 (調査対象入院の前に生じた事象により、新たな入院が必要となったり、入院が延長したり、障害が残ったり、死亡が早まった事例)	医療との因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=實際上困難
前額部手術後、膿瘍と骨髄炎を発症し、新たな入院を要した	2	2
食道裂孔ヘルニアに対する手術後に、胃食道逆流症が再発し、新たな入院を要した	2	2
下垂体腫瘍摘出術後の髄液漏により、新たな入院を要した	2	2
直腸癌手術後に直腸腔瘻を生じ、自然閉鎖が見られないため、手術目的で新たな入院を要した	2	2
下肢血管手術後に敗血症を発症し、新たな入院を要した	2	2
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
帝王切開術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
ペースメーカー埋め込み後の創部感染により、新たな入院を要した	2	3
食道癌術後の吻合部狭窄に対する拡張術のため、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
他院で硝子体手術後、硝子体出血を来し、新たな入院を要した	2	3
腹壁癒痕ヘルニア根治術後の再発により、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスと腹壁癒痕ヘルニアにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
口腔再建術後の感染により、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
食道癌術後の通過障害により、新たな入院を要した	2	3
人工股関節全置換術後に脱臼を繰り返し、新たな入院を要した	2	3
前回手術時の眼内挿入物の感染により、新たな入院を要した	2	3
咽頭癌手術後の気管孔狭窄に対する手術のため、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
白内障術後、視力が回復せず、再手術のため、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
咽頭癌手術後に顎下部瘻孔を生じ、新たな入院を要した	2	3
膝靭帯再建術後の関節水腫により、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のサブイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
子宮頸管縫縮術後の糸の結び目が埋没し、抜糸のため、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
人工肛門造設術後にイレウスを生じ、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
直腸手術後、便失禁および疼痛があり、人工肛門造設のため新たな入院を要した	2	3
前回のシャント手術が不成功であったため、新たな入院を要した	2	3
そけいヘルニア術後の再発により、新たな入院を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	2	3
骨折の治療後、拘縮の除去手術のため、新たな入院を要した	3	1
上肢の外傷に対する手術後、伸展不良となり、再手術のため新たな入院を要した	3	2
開腹手術後の腹壁癒痕ヘルニアにより、新たな入院を要した	3	2

調査対象入院の前に生じた有害事象 (調査対象入院の前に生じた事象により、新たな入院が必要となったり、入院が延長したり、障害が残ったり、死亡が早まった事例)	医療との 因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=実際上困難
他院で腰椎手術後に症状再発し、新たな入院を要した	3	2
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	3	3
膝頭十二指腸切除術の既往がある患者が膝炎を発症し、新たな入院を要した	3	3
骨折後の偽関節に対する手術後に再発し、新たな入院を要した	3	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	3	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	3	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	4	3
気胸に対する手術後に再発を繰り返し、新たな入院を要した	4	3
下肢静脈瘤手術後、同部位に蜂窩織炎を発症し、新たな入院を要した	4	3
指切断に対する形成術後、変形を生じ、再手術のため、新たな入院を要した	4	3
8. 院内感染やその他の感染に関連した有害事象(術後感染を除く)		
リザーバー留置部の膿瘍形成により、新たな入院を要した	2	1
新生児が MRSA 腸炎を発症し、新たな入院を要した	2	1
腹膜透析導入後、MRSA 腹膜炎のためチューブを抜去し、再挿入のため、新たな入院を要した	2	1
他院での院内感染による新生児早期発疹性疾患のため、新たな入院を要した	3	1
施設で発症した誤嚥性肺炎により、新たな入院を要し、死亡が早まった	3	2
前回入院時、敗血症により心臓カテーテル検査が延期となったため、新たな入院を要した	3	2
新生児早期発疹性疾患の疑いにより、新たな入院を要した	3	3
施設で発症した誤嚥性肺炎により、新たな入院を要した	4	2
9. ドレーン・カテーテル・チューブ・ポート・ライン類の管理に関連した有害事象		
肝リザーバーポートのカテーテル部損傷により、新たな入院を要した	2	1
10. 医療用具・機器の使用・管理に関連した有害事象		
ペースメーカーの電池切れにより意識消失し、新たな入院を要した	2	1
11. システムに関連した有害事象		
前回入院時、アスピリン内服していたため手術施行できず、即日退院となり、新たな入院を要した	2	1
前立腺生検のため抗血栓剤を中止していたが、他院で内服が再開されていたため、生検が延期となり、入院期間が延長した	3	1
12. 入院中の療養上の世話に関する有害事象		
療養病棟で経管栄養中に誤嚥して呼吸不全となり、新たな入院を要した	3	2
施設で経管栄養中、誤嚥性肺炎を発症し、新たな入院を要した	4	2
施設でベッドから転落し、大腿骨骨折を生じ、新たな入院を要した	4	2

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との因果関係	予防可能性
	1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の変更は不要
1.診断に関連した有害事象		
術前の腫瘍進展範囲の評価が不十分で再手術が必要となり、新たな入院を要した	2	1
新生児腸閉鎖の診断が遅れ、再手術となり、入院期間が延長した	2	2
肺炎の診断治療の遅れに伴い、骨髄疾患の治療が遅れ、入院期間が延長した	3	2
調査対象入院中に貧血を認めたが精査されず、退院後多量に下血したため、新たな入院を要し、死亡が早まった	4	2
2.検査に関連した有害事象		
心臓カテーテル検査後の血腫により、入院期間が延長した	2	1
心臓カテーテル検査を試みたがカテーテルを挿入できず、検査延期により、入院期間が延長した	2	1
肺生検による気胸により、入院期間が延長した	2	2
上部消化管内視鏡中に血圧が低下し、強心薬を連日点滴した	2	3
内視鏡的逆行性胆管膵管造影後、膵炎により、入院期間が延長した	2	3
低出生体重児に対して頻りに採血したため、貧血により、入院期間が延長した	2	3
冠動脈バイパス術後、確認の心臓カテーテル検査でバイパス血管が解離したため、緊急ステント挿入を要し、入院期間が延長した	2	3
心臓カテーテル検査入院中の発熱により、入院期間が延長した	4	3
3.治療に関連した有害事象		
不適切な経口摂取指示により誤嚥性肺炎を発症し、死亡が早まった	2	1
未熟児に酸素を連日投与したところ、未熟児網膜症を発症し、レーザー治療を要した	2	3
放射線治療中、肺臓炎を発症し、入院期間が延長した	2	3
呼吸困難のある患者が不適切な経口摂取指示により誤嚥し、集中治療室での治療を要した	3	1
尿路感染に対して医師より水分摂取を指示された結果、心不全が悪化したため、新たな入院を要した	3	1
慢性腎不全の治療が不十分な状態で退院し、症状悪化により新たな入院を要した	3	2
人工呼吸管理中の患者が、呼気終末陽圧により肺を損傷し、胸腔ドレナージを要した	3	3
交通外傷で入院中、肺動脈血栓症を発症し、入院期間が延長した	4	3
4.処置に関連した有害事象		
膿瘍に対する壊死組織の除去が不適切であったため、その後繰り返し手術を要し、入院期間が延長し、未完治のまま退院した	2	1
抗凝固薬を内服中、膿瘍穿刺ドレナージにより出血し、輸血を要した	2	1
内視鏡的逆行性胆管膵管造影で排石できずに再処置を要し、入院期間が延長した	2	1
中心静脈カテーテル挿入時に気胸となり、胸腔ドレナージを要した	2	2
食道癌に対する凝固療法の合併症により、入院期間が延長した	2	2
中心静脈カテーテル挿入時に気胸を発症し、胸腔ドレナージを要した	2	2
中心静脈カテーテル挿入時に気胸を発症し、胸腔ドレナージを要した	2	2
経皮的冠動脈形成術後、急性冠動脈閉塞となり、再形成術を要し、入院期間が延長した	2	2
分娩時の膣壁・会陰裂傷の出血により、入院期間が延長した	2	2
肝臓に対する経皮的エタノール注入後の肝機能障害により、入院期間が延長した	2	3

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との 因果関係	予防可能性
	1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の 変更は不要
経皮的冠動脈形成術中、血管の乖離が生じ、入院期間が延長した	2	3
肝動脈塞栓術後、高血糖となり持続インスリン投与が必要となった	2	3
内視鏡的に膵管ステント挿入後、感染症を発生し、入院期間が延長した	2	3
大腸内視鏡的粘膜切除術時の出血により、入院期間が延長した	2	3
内視鏡的逆行性胆管膵管造影で排石できずに急性膵炎を発生し、化膿性胆管炎から敗血症に至り、入院期間が延長した	3	2
導尿後の尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
導尿後の尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
導尿後の尿路感染により、入院期間が延長した	3	2
導尿後の尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
内視鏡的逆行性胆管膵管造影後、膵炎を発生し、膵炎治療薬を連日点滴した	3	3
胆石・総胆管結石に対する内視鏡的処置後、急性膵炎を発生し、入院期間が延長した	3	3
心臓カテーテル検査後に脳硬塞を発生し、抗血栓剤、脳保護剤を連日点滴した	3	3
経皮的肝動脈塞栓術後の感染により、抗生物質を連日点滴した	3	3
上肢骨折に対する牽引により神経障害が出現し、退院後も障害が残った	4	3
5.薬剤に関連した有害事象		
抗生物質を点滴中、けいれん発作が誘発され、死亡が早まった	2	1
インターフェロンによる間質性肺炎により、新たな入院を要した	2	1
多量の造影剤による腎機能障害のため、入院期間が延長した	2	2
動注の抗血栓剤が皮膚に漏出して皮膚炎を生じ、入院期間が延長した	2	2
抗ウイルス剤による無顆粒球症により、入院期間が延長した	2	3
抗生物質を投与中に偽膜性腸炎を発生し、予定手術の延期により、入院期間が延長した	2	3
子宮収縮抑制剤の副作用で児が低血糖になり、連日の点滴を要した	2	3
造影剤による皮疹のため、経皮的冠動脈形成術が延期となり、新たな入院を要した	2	3
胃潰瘍治療薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗痙攣薬などを内服中に、白血球が減少し、入院期間が延長した	2	3
抗生物質内服中の大腸炎により、入院期間が延長した	2	3
非ステロイド性抗炎症薬と抗血栓剤を投与中、肝機能障害が生じ、入院期間が延長した	2	3
血液疾患の化学療法後に発生した MRSA 上顎洞炎により、視力障害が出現し、退院後も障害が残った	2	3
抗癌剤投与中の皮疹により、入院期間が延長した	2	3
産後、薬剤内服中の皮疹により、入院期間が延長した	2	3
抗悪性腫瘍薬内服中、アレルギーにより、入院期間が延長した	2	3
抗生物質を投与中、偽膜性腸炎を発生し、入院期間が延長した	2	3
抗生物質を投与中、偽膜性腸炎を発生し、新たに入院の必要が出た	2	3
脳腫瘍に対する化学療法後に腎機能障害を生じ、入院期間が延長した	2	3
抗生物質を投与中、偽膜性腸炎を発生し、入院期間が延長した	2	3
脳梗塞治療薬投与中に多臓器不全を生じ、濃厚な処置を要した	2	3
非ステロイド性抗炎症薬の坐薬を使用中、胃潰瘍を発生し、入院期間が延長した	3	2
非ステロイド性抗炎症薬を内服中、胃粘膜保護剤は処方されておらず、胃潰瘍を発生し、新たな入院を要した	3	2

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との 因果関係	予防可能性
	1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の 変更は不要
血液疾患に対する化学療法中の発熱のため、抗生物質を連日点滴した	3	3
抗生物質を投与中の出血性腸炎により、入院期間が延長した	3	3
血液疾患に対する化学療法中に敗血症を発症し、抗生物質を連日点滴した	3	3
癌に対する化学療法中に発熱、ショックを起こし、連日の点滴治療を要した	3	3
血液疾患に対する化学療法中の肺真菌症により、入院期間が延長した	3	3
血液疾患に対する化学療法中の感染により、抗生物質を連日点滴した	3	3
癌に対する化学療法中の肺炎疑いにより、入院期間が延長した	3	3
血液疾患に対する化学療法中の敗血症により、入院期間が延長した	3	3
抗生物質投与中の肝機能障害により、入院期間が延長した	3	3
癌に対する化学療法中の感染により、抗生物質を連日点滴した	3	3
血液疾患の化学療法中に感染し、抗生物質を連日点滴した	3	3
出血性胃潰瘍で入院中、経口摂取後に吐血したため、内視鏡的止血術を要し、入院期間が延長した	3	3
喘息の治療薬内服中、発疹のため、新たな入院を要した	3	3
造影剤投与後の発疹により、入院期間が延長した	3	3
造血薬による成人呼吸促迫症候群が疑われ、ステロイドパルス療法を要した	3	3
抗生物質を投与中に肝障害を生じ、入院期間が延長した、	3	3
抗生物質投与中の皮疹により、入院期間が延長した	4	3
高尿酸血症治療薬を内服中、腎機能障害を生じ、未完治のまま退院した	4	3
抗凝固薬を内服中、出血性消化管潰瘍を生じ、連日の制酸剤点滴を要した	4	3
6.手術中に発生した有害事象		
胆石手術中、胆嚢が穿孔して胆嚢中の結石が腹腔内に落下したため、入院期間が延長した	2	1
泌尿器科手術中、結紮系がはずれ大量出血し、輸血を要した	2	1
経皮的椎間板摘出術にて神経障害を生じ、退院後も障害が残った	2	1
眼科手術中の合併症により再手術が必要となり、入院期間が延長した	2	2
腹腔鏡下直腸切除術中に小腸穿孔を来し、入院期間が延長するとともに、退院後にも処置を要した	2	2
食道癌手術後、両側気胸のため再挿管および胸腔ドレーンの挿入を要した	2	2
白内障手術中の合併症により、反対側の手術が延期し、入院期間が延長した	2	3
人工股関節全置換術中に大量出血し、輸血を要した	2	3
舌癌手術中に神経を切断し運動障害、麻痺が出現し、退院後も障害が残った	2	3
敗血症患者に対する緊急手術のための麻酔導入後に心停止し、死亡が早まった	2	3
聴神経腫瘍摘出術後に顔面神経麻痺が出現し、退院後も麻痺が残った	2	3
馬尾神経腫瘍切除後、神経障害が出現し、入院期間が延長した	2	3
下大静脈腫瘍塞栓摘除術中に、肺梗塞となり心停止し、肺梗塞治療のため、入院期間が延長した	3	3
7.手術後に発生した有害事象		
脊椎手術後の MRSA による創部感染により、入院期間が延長した	2	1
人工血管置換後の MRSA 感染により、抗生物質を連日点滴した	2	1
開腹手術後に創部が感染し、未完治のまま退院した	2	1
開腹手術後の膝液漏れにより、入院期間が延長した	2	1
人工骨頭置換術後、MRSA による創部感染により、入院期間が延長した	2	1
虚血肢の不適切な切断のため再手術が必要となり、入院期間が延長した	2	1

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との因果関係	予防可能性
	1=明らかに偶った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の変更は不要
食道癌術後に胃管が壊死して膿胸となり、死亡が早まった	2	1
網膜症に対する手術の合併症のため、再手術を要し、入院期間が延長した	2	1
角膜移植後、合併症のため再手術を要し、入院期間が延長した	2	1
腹腔鏡下胆嚢摘出術後に、内視鏡的逆行性胆管膵管造影による採石が必要となり、入院期間が延長した	2	1
開腹手術後に膵液漏を発症し、MRSA による腹腔内膿瘍を生じたため、入院期間が延長した	2	1
直腸手術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	1
冠動脈バイパス手術後、下肢の創部が感染、離開したため、新たな入院を要した	2	1
心臓手術後、創部感染、MRSA 肺炎を発症し、死亡が早まった	2	1
開腹手術後に敗血症性ショックを発症し、入院期間が延長した	2	1
腹腔-頸静脈シャント後の感染により、入院期間が延長した	2	1
冠動脈バイパス手術後、バイパス血管のねじれによる狭窄に対し、ステント留置を要した	2	1
手術中の輸液過量により、術後心不全を発症し、入院期間が延長した	2	1
開腹手術後に創部 MRSA 感染と腹腔内膿瘍を発症し、入院期間が延長した	2	1
開腹手術後のドレーン感染により、入院期間が延長した	2	1
人工血管の感染により、新たな入院を要した	2	1
ペースメーカー埋め込み後に血腫を形成し、入院期間が延長した	2	1
脳外科手術後、緊張性気脳症により、再手術を要した	2	1
心臓手術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	1
脊椎手術後の創離開により、入院期間が延長した	2	2
胃切除術後の吻合部リーク(漏出)により、入院期間が延長した	2	2
斜視手術後、複視が出現し、退院後も複視が残った	2	2
開腹手術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	2
開腹手術後にドレーンから出血し、輸血を要した	2	2
腹腔鏡下胃切除後の吻合部通過障害により、入院期間が延長した	2	2
人工股関節全置換術後に脱臼したため、新たな入院を要した	2	2
咽頭癌手術後、創離開部のリーク(漏出)により、入院期間が延長した	2	2
抗凝固薬を内服中の患者に対し、経尿道的前立腺切除術後に止血術が繰り返し必要となり、入院期間が延長した	2	2
開腹手術後の創離開により、入院期間が延長した	2	2
直腸手術後の膿瘍孔形成により、入院期間が延長した	2	2
開胸手術後の創部感染に対し、抗生物質を連日点滴した	2	2
人工肛門造設術後の敗血症により、入院期間が延長した	2	2
腹腔鏡補助下S状結腸切除術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	2
乳癌の手術後に感染を生じ、入院期間が延長した	2	2
開腹手術後に創感染を生じ、開創中のまま退院となり、退院後も処置を要した	2	2
そけいヘルニア手術後に皮下血腫を生じ、入院期間が延長した	2	2
開腹手術後の創感染により、入院期間が延長した	2	2
人工肛門造設術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	2
そけいヘルニア術後の創部感染により、入院期間が延長した	2	2
開腹手術後の創離開により、入院期間が延長した	2	2
膵頭十二指腸切除術後に MRSA 感染を生じ、抗生物質を連日点滴した	2	2

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との 因果関係	予防可能性
	1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の 変更は不要
骨折の整復固定術後にワイヤーがあたり、再手術を要した	2	3
シャント造設部の発赤に対して抗生物質を要し、入院期間が延長した	2	3
胆管癌術後の肝膿瘍により、新たな入院を要した	2	3
脊椎手術後、創部浸出液があり、処置のため入院期間が延長した	2	3
網膜症に対する手術後、症状が再発したため再手術が必要となり、入院期間が延長した	2	3
泌尿器科手術後の疼痛により、入院期間が延長した	2	3
心膜切開後症候群により、入院期間が延長した	2	3
胆管の手術後、吻合部のリーク(漏出)により、入院期間が延長した	2	3
眼瞼部悪性腫瘍切除後の兎眼に対する手術のため、新たな入院を要した	2	3
経尿道的前立腺切除術後の出血により、血腫除去術、止血術を要した	2	3
開腹手術後のイレウスにより、入院期間が延長した	2	3
下肢静脈瘤術後のリンパ漏れにより、入院期間が延長した	2	3
シャント造設後、止血処置と血管形成術を要した	2	3
膵頭十二指腸切除術後に胆管炎を生じ、抗生物質を連日点滴した	2	3
経尿道的前立腺切除術後の尿漏れにより、入院期間が延長した	2	3
開腹手術後の術創に不良肉芽を生じ、退院後も処置を要した	2	3
開腹手術後に腹壁癒着ヘルニアを生じ、新たな入院を要した	2	3
腹腔鏡下胆嚢摘出術後に胆汁漏れを生じ、入院期間が延長した	2	3
人工膝関節置換術後に創部より浸出液があり、洗浄と再縫合を要し、入院期間が延長した	2	3
経尿道的前立腺切除術後の出血のため、入院期間が延長した	2	3
シャントを造設したが狭窄し、再手術を要した	2	3
開腹手術後にドレーン挿入部が感染し、未完治のまま退院した	3	1
人工股関節全置換術後、脳硬塞・腸間膜動脈閉塞を発症し、治療のため入院期間が延長し、退院後も後遺症が残った	3	1
人工肛門造設術後の創部 MRSA 感染により、入院期間が延長した	3	1
開腹手術後に無気肺を生じ、気管挿管を要した	3	2
開腹手術後、ドレーンの MRSA 感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
開胸手術後の創部感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
腹腔鏡下胆嚢摘出術後に肺塞栓症を発症し、入院期間が延長した	3	2
胆嚢摘出・総胆管切開術後の創部感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
人工股関節全置換術後、脱臼を繰り返したため、再手術を要し、入院期間が延長した	3	2
虫垂切除術後に、腸穿孔で再手術を要し、入院期間が延長した	3	2
経尿道的前立腺切除術後に精巣上体炎を発症し、新たな入院を生じた	3	2
未破裂脳動脈瘤クリッピング術後に複視が出現し、退院後も複視が残った	3	3
手根管症候群術後に症状悪化し、退院後もしびれが残った	3	3
腹腔鏡下胆嚢摘出術後に肝炎、膵炎を発症し、入院期間が延長した	3	3
膵臓癌術後の腹腔内出血により、死亡が早まった	3	3
開腹手術後に敗血症が疑われ、抗生物質を連日点滴した	3	3
ステロイド内服中の患者が、手術後にびらん性胃炎を発症し、入院期間が延長した	3	3
冠動脈バイパス手術後に脳梗塞を発症し、退院後も障害が残った	3	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	3	3

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との因果関係	予防可能性
	1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	1=高い 2=低い 3=治療方針の変更は不要
胆管癌手術後の胆管炎により、新たな入院を要した	3	3
開腹手術後のイレウスにより、新たな入院を要した	3	3
開腹手術後に胆管炎が疑われ、抗生物質とグロブリン製剤を連日点滴した	3	3
心臓大血管手術後の低心拍出量症候群により、死亡が早まった	3	3
開腹手術後のイレウスにより、入院期間が延長した	3	3
開腹手術後の肝酵素上昇により、入院期間が延長した	3	3
脳外科手術後に急性膵炎、肝障害を発症し、絶食と中心静脈栄養を要した	3	3
経尿道的前立腺切除術後の精巣上体炎により、入院期間が延長した	3	3
ペースメーカー埋め込み後に発熱があり、抗生物質を連日点滴した	3	3
膵頭十二指腸切除術後に胆管炎を生じ、抗生物質を連日点滴した	3	3
開腹手術後のイレウスにより、入院期間が延長した	3	3
くも膜下出血に対する脳動脈塞栓術後に左同名半盲を生じ、退院後も残った	3	3
大腿骨手術後に肺炎を発症し、入院期間が延長した	3	3
直腸癌手術後、下肢深部静脈血栓症を発症し、血栓溶解剤を連日点滴した	4	2
急性心筋梗塞に対する手術後に心室中隔穿孔を発症し、入院期間が延長した	4	2
緊急開腹手術後、誤嚥性肺炎を発症し、死亡が早まった	4	2
脊椎手術後、上腸間膜動脈症候群と思われるイレウス症状により、入院期間が延長した	4	3
冠動脈バイパス術後に脳硬塞を発症し、退院後も後遺症が残った	4	3
大腿骨頸部骨折の手術後、胸水、無気肺を発症し、入院期間が延長した	4	3
泌尿器科手術後の発熱により、入院期間が延長した	4	3
帝王切開後の発熱により、入院期間が延長した	4	3
8. 院内感染やその他の感染に関連した有害事象(術後感染を除く)		
気管チューブ抜管後、喀痰よりMRSAが検出され、抗生物質を連日点滴した	2	1
癌に対する化学療法点滴刺入部が感染したため、抗生物質を連日点滴した	2	1
中心静脈カテーテルのMRSA感染により、抗生物質を連日点滴した	2	1
胸腔ドレーン感染により、入院期間が延長した	2	1
MRSAによる化膿性関節炎により、入院期間が延長した	2	1
経管栄養中の誤嚥性肺炎により、入院期間が延長した	2	1
腹膜透析カテーテルの感染により、入院期間が延長した	2	1
誤嚥性肺炎により、抗生物質を連日点滴した	2	1
腹膜透析カテーテル留置後に感染を生じ、腹壁皮下膿瘍のために入院期間が延長した	2	2
入院中にロタウイルスによる急性胃腸炎を発症し、入院期間が延長した	3	1
入院中にロタウイルスによる急性胃腸炎を発症し、入院期間が延長した	3	1
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
MRSA肺炎・腸炎により、抗生物質を連日点滴した	3	2
脳梗塞後の誤嚥性肺炎により、入院期間が延長した	3	2
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染により、入院期間が延長した	3	2
下肢潰瘍のMRSA感染により、入院期間が延長した	3	2
糖尿病で入院中、MSSA感染により、入院期間が延長した	3	2
気管切開患者の気道感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
開胸開腹手術後、中心静脈カテーテルからの感染が疑われ、抗生物質を連日点滴し	3	2

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=治療方針の変更は不要
た		
MRSAによる尿路感染のため、抗生物質を連日点滴した	3	2
入院中の誤嚥性肺炎により、入院期間が延長した	3	2
硬膜外カテーテルの感染が疑われ、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
失禁でオムツ使用中、尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染から敗血症に至り、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置に伴う尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置後の尿路感染により、入院期間が延長した	3	2
膀胱カテーテル留置中の尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
膀胱カテーテル留置中の尿路感染のため、入院期間が延長した	3	2
膀胱カテーテル留置中の尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	2
癌に対する化学療法中にカテーテル感染が疑われ、抗生物質を連日点滴した	3	3
前医で留置した膀胱カテーテルに伴う尿路感染により、抗生物質を連日点滴した	3	3
胃瘻周囲の感染に対し、抗生物質を連日点滴した	4	2
腹膜透析カテーテル刺入部が発赤し、透析開始が遅れたため、入院期間が延長した	4	2
入院中の誤嚥性肺炎により、入院期間が延長した	4	3
意識障害の患者が呼吸器感染症を発症し、抗生物質を連日点滴した	4	3
入院中の誤嚥性肺炎により、抗生物質を連日点滴した	4	3
9.ドレーン・カテーテル・チューブ・ポート・ライン類の管理に関連した有害事象		
ポート挿入部の MRSA 感染により、入院期間が延長した	2	1
開腹手術後、抜去したドレーンの一部が腹腔内に残留したため、手術を要し、入院期間が延長した	2	1
開腹手術後、ドレーンが腹腔内へ脱落し、再手術を要した	2	1
腹膜透析カテーテル挿入術後、カテーテルが抜けかけたため、再手術を要し、入院期間が延長した	2	2
点滴が漏れて上肢の腫脹と血行障害を生じ、退院後も障害が残り、手術のために新たな入院を要した	2	2
中心静脈カテーテル抜去時に、カテーテルが切れて先端が遺残し、入院期間が延長した	2	3
ペースメーカーのリードが抜けたため、再固定を要し、入院期間が延長した	3	2
11.システムに関連した有害事象		
局所麻酔薬の取り違えにより、連日心電図モニターの監視を要し、輸液を実施した。	1	1
不整脈患者が一般病室で心室細動となったが、看護師がアラームに気付くのが遅れ、死亡が早まった	1	1
分娩後の子宮収縮不良に対する当直医の対応が遅れ、入院期間が延長した	2	1
12.入院中の療養上の世話に関する有害事象		
褥創の悪化を来し、退院後も処置を要した	2	1
転倒後、腹部の創離開により、入院期間が延長した	2	2
脳梗塞で入院中、転倒により上肢を骨折し、未完治のまま退院した	3	1
弾性ストッキングにより水疱を形成し、未完治のまま退院した	3	1
病室にて転倒し、大腿部骨折により、入院期間が延長した	3	1
新生児の糖水多飲による低ナトリウム血症により、新たな入院を要した	3	2
大腿骨腫瘍の患者が歩行器使用中に転倒、骨折し、手術を要した	3	2

調査対象入院中に生じた有害事象	医療との因果関係 1=明らかに誤った 2=100% 3=高い 4=低い	予防可能性 1=高い 2=低い 3=治療方針の変更は不真
入院中の安静に伴う廃用性萎縮により歩行困難となり、退院後も歩行困難となった	3	2
転落により歯牙損傷し、退院後も損傷が残った	4	2
脳出血で入院中、Ⅲ度の褥創を発症し、未完治のまま退院した	4	3

研究者名簿

主任・分担研究者名簿

(平成 18 年 3 月現在・五十音順・敬称略)

主任研究者	塚 秀人	神奈川県病院事業庁長
分担研究者	池田 俊也	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 専任講師
分担研究者	大道 久	日本大学医学部 教授
分担研究者	長谷川 敏彦	国立保健医療科学院政策科学部 部長
分担研究者	長谷川 友紀	東邦大学医学部社会医学講座 医療政策・経営科学分野 教授
分担研究者	平尾 智広	香川大学医学部医療管理学 助教授
分担研究者	兼児 敏浩	三重大学医学部医療管理学 助手

ワーキンググループ名簿

(平成 18 年 3 月現在・五十音順・敬称略)

リーダー	池田 俊也	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 専任講師
	石川 雅彦	国立保健医療科学院政策科学部安全科学室 主任研究官
	石本 人士	慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 助手
	兼児 敏浩	三重大学医学部医療管理学 助手
	北井 啓勝	埼玉県社会保険病院産婦人科 部長
	北沢 直美	昭和大学病院
	小林 美亜	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 助手
	坂口 千鶴	北里大学看護学部 助教授
	坂口 美佐	茨城県立こども病院麻酔科
	廣瀬 昌博	京都大学医学部附属病院 安全管理室
	藤田 茂	東邦大学医学部社会医学講座 医療政策・経営科学分野 助手
	楊 浩勇	スマイル眼科クリニック
	吉原 恵	財団法人国際医学情報センター

運営検討委員名簿

※◎：主任研究者（委員長） ○：分担研究者（平成18年3月現在・五十音順・敬称略）

- 東 司 社会福祉法人天心会小阪病院 理事長・院長
- 飯田 修平 財団法人東京都医療保健協会練馬総合病院 院長
- 池田 俊也 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 専任講師
- 石川 陵一 聖路加国際病院 副院長
- 稲垣 克巳 一般有識者
- 井部 俊子 聖路加看護大学 学長
- 大井 利夫 上都賀厚生農業協同組合連合会上都賀総合病院 名誉院長
- 大家 他喜雄 石川県立中央病院 名誉院長
- 大道 久 日本大学医学部 教授
- 落合 慈之 NTT 東日本関東病院 院長
- 小畑 洋一 読売新聞社 社会保障部 部長
- 門林 宗男 兵庫医科大学病院薬剤部 薬剤部長
- 兼児 敏浩 三重大学医学部医療管理学 助手
- 郡 健二郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学 教授
- 小林 淳剛 豊橋市民病院 院長
- ◎ 堺 秀人 神奈川県病院事業庁長
- 坂本 すが NTT 東日本関東病院 看護部長
- 坂本 憲枝 消費生活アドバイザー
- 櫻井 芳明 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 院長
- 鈴木 利廣 すずかけ法律事務所 弁護士 明治大学法科大学院 教授
- 角南 讓 社団法人日本精神科病院協会会員病院 医療法人仁風会八雲病院 理事長
- 武田 隆男 医療法人財団康生会武田病院 武田病院グループ会長
- 土屋 文人 東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部長
- 土谷 晋一郎 医療法人あかね会土谷総合病院 理事長
- 十時 忠秀 佐賀大学医学部附属病院 院長
- 中島 和江 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 副部長 病院教授
- 沼尾 嘉時 特定医療法人社団洋精会沼尾病院 理事長 日本医療法人協会 常務理事
- 長谷川 敏彦 国立保健医療科学院政策科学部 部長
- 長谷川 友紀 東邦大学医学部社会医学講座 医療政策・経営科学分野 教授
- 樋口 正俊 樋口産婦人科医院 院長
- 平尾 智広 香川大学医学部医療管理学 助教授
- 平塚 秀雄 特別医療法人社団時正会佐々総合病院 院長

※本年度は第1回を平成17年9月7日、第2回を平成18年3月17日に開催した。

医療事故の全国的発生頻度に関する研究
報告書

平成 18 年 3 月

編集・印刷

株式会社 三菱総合研究所 社会システム研究本部
ヒューマン・ケア研究グループ

〒100-8141 東京都千代田区大手町 2-3-6
電話 03-3277-0569 FAX 03-3277-3460
